

平成30年度

学校評価アンケート

【結果と分析】



福島県立光南高等学校

平成30年度学校評価アンケートの結果と分析

【在籍数】603名（11月16日現在）

【回収率】生徒 98, 5%（594名）[1年 197名、2年 199名、3年 198名、4年 0名]
保護者 64%（386名）[1年 128名、2年 110名、3年 148名、4年 0名]
教員 100%（49名）

【教科指導に関して】

アンケート質問〈生徒〉No.1～No.7 〈保護者〉No.1～No.3 〈教員〉No.5～No.10 に関して

〈生徒〉No.1・No.2

・「分かりやすく教えようとする意欲が伝わる」について、肯定的回答が全生徒で87.1%となった。昨年の79.7%より増加しており、改善が見られたと考える。しかし、生徒の「もっと知りたい」「考えたい」という項目に関しては、肯定的意見が減少しているため、次年度も各教科で工夫をしながら生徒の興味関心を引き出していきたい。

〈生徒〉No.4 〈保護者〉No.1 〈教員〉No.8

・「公平な成績評価」については、生徒89.2%、保護者96.9%が肯定的回答となっている。教科の特性により違いがあるものの、今後も公平公正な評価に努めていきたい。

〈生徒〉No.5 〈教員〉No.9

・学習課題・プリントに関しては肯定的回答が、1年次80.8%、2年次73.9%、3年次84.7%となっている。否定的な回答を持っている生徒は、学習内容の定着に不安を持ち、より多くの課題やプリントを希望している生徒が多いとも読み取れる。今後も生徒の実態を把握しながら各教科で、改善・工夫を図ってきたい。

〈生徒〉No.7 〈教員〉No.10

・生徒の読書時間（H29 45.6% H30 31.3%）と共に、教員の読書活動の啓発（H29 89.8% H30 38.7%）について昨年より肯定的意見が低下している。今年度、公開文化祭と校内芸術祭、課題研究発表会の本校での開催など行事が錯綜したことが影響していると考えられる。生徒の成長過程において読書の与える影響力は大きいので、知識に対する興味関心を高めるためにも、次年度は各教科の特性に応じた読書活動の推進が行えるようにしたい。

【生徒指導・教育相談・生徒理解に関して】

アンケート質問〈生徒〉No.8～No.14 〈保護者〉No.4～No.7 〈教員〉No.11～No.17 に関して

〈生徒〉No.8～No.14

・生徒指導の方針、教育相談、生徒理解について、約4分の1の生徒が否定的な回答をしている。この原因は、共通して生徒と教員間のコミュニケーション不足が原因となっている可能性ある。生徒の成長を考えると、生徒指導方針を大きく変えることはできないが、生徒の気持ちに寄り添いながら、声かけや面談を充実させるなど配慮し生徒指導にあたっていきたい。

〈保護者〉No.4～No.7

・保護者の生徒の悩み相談やいじめ対策については否定的意見が20%近くになっている。カウンセリングなど教育相談部中心に組織的な対応を実施しているが、保護者様との連絡・連携をしっかりと図るなど、今後もきめ細かな対応に努めていきたい。

〈教員〉No.11～No.17

・交通安全・通信機器取り扱いについては、交通事故、生徒の問題行動を引き起こす可能性があるため、全体指導、HR等で注意喚起を充実させていきたい。

（交通安全指導回答2・1が24.4%、SNS指導回答2・1が14.2%）

【進路指導について】

アンケート質問〈生徒〉No.15・No.16 〈保護者〉No.8・No.9 〈教員〉No.18・No.19 に関して

〈生徒〉No.15・No.16

・進路に関する指導については約87%が肯定的意見である。しかし、約13%が否定的意見を持っており、全員が納得できるよう進路指導を充実させていく。特に、個別面談に力を入れながら、進路指導部、各学年および各担任で連携しながら、進路実現を図っていきたい。

〈保護者〉No.8・No.9

・進路指導に関して、どの学年の保護者からも肯定的な意見を頂いた。この体制を検証しながら継続していく。ただ、進路情報の提供については、否定的意見も多少みられるので、スムーズな情報収集ができるよう生徒・保護者・教員への情報提供に努めたい。

【学校生活等に関して】

アンケート質問〈生徒〉No.17～No.27 〈保護者〉No.10～No.18 〈教員〉No.22・No.23 に関して

〈生徒〉No.17～No.27

・学校行事への参加については、消極的だったことを伺わせる回答がやや高めであった。生徒一人一人の状況にも配慮しながら、学校行事やホームルームなどで活躍の場を提供し、学校生活で充実感が持てるようにしていきたい。

・文化祭など行事や学習を通して、地域とのつながりや支えられているという実感を持つことのできた生徒が多いと思われる。さらに、自己の充実だけでなく、家族や地域に貢献しようとする意識を高めていきたい。

・学校と生徒・保護者との信頼関係の築き方について、年次によっては否定的な意見が高めだった。学校としては信頼関係が築けるようにしているつもりだが、改善を図らなければならない数値だと考える。学校の方針をご理解いただく努力と忌憚のないご意見を伺うためにも各家庭との連絡を密にし、生徒の健やかな成長のために協力関係を築いていきたいと考える。

・教員に対し、「尊敬できる」また、保護者アンケート「尊敬に値する言動に努めている」という項目で否定的な意見（生徒：22.7%、保護者：14.3%）が少なからずみられた。生徒・保護者・地域の目を意識した言動・立ち振る舞いになお一層気を付けていかなければならないと考える。

〈保護者〉No.10～No.18

・「学校生活に関する連絡」・「保護者の方への協力依頼」については肯定的な意見が高かった。今年度は「メール配信」も多く、このような結果となったと考える。保護者の皆様の学校活動への協力に感謝するとともに、今後も、生徒の学校生活が充実できるようスムーズな連絡体制に心掛けたい。

【家庭学習に関して】

アンケート質問〈生徒〉No.6・No.28 〈保護者〉No.2 〈教員〉No.9に関して

〈生徒〉No.6・No.28 〈保護者〉No.2

・学校外で継続して学習を行っている生徒が昨年より減少している。（全体 H29 26.6% H30 20.4%）また、家庭学習時間も30分以下の生徒が（H29 52.7% H30 58.5%）半数を超え増加している。本校では、運動部や芸術など学校生活の目標も様々で、一概には言えないが家庭学習時間の不足は明らかである。他の生徒アンケートで本校生徒のスマホの利用時間が全国平均より多いことが明らかとなったが、学習時間の不足は進路目標の達成に大きく響くこともあり、家庭学習時間減少の原因を早急に探りながら、次年度は生徒の自己管理能力を育成し、自ら学習に取り組む姿勢を持つ生徒が増えるように働きかけていきたい。

【教育課程等に関して】

アンケート質問〈教員〉No.24・No.25に関して

〈教員〉No.24・No.25

・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間・課題研究」の指導、科目選択・系列選択の指導について、肯定的回答が減少している。総合学科の特徴的な部分であり、授業の目標や内容、科目選択・系列選択あり方など学校内で共通理解を図りながら、どの系列も充実した指導を進めていくのが今後の課題である。